

うちの
みんなで
読んでね

浄土で待つ人がいる

報恩講を営み参詣するのは、親鸞聖人と同一の浄土へ往生する道を聞くためです。浄土で聖人は私を待っていてくださるのであります。

浄土真宗でご開山と崇められる親鸞聖人は、寒中の1月16日（旧暦は11月28日）がご命日です。古来その日を最終日として、本願寺ではその一週間前から御正忌報恩講としてお勤めをし、全国から多くのご門徒が参詣されます。秋冬には各地の末寺でも報恩講を営みますし、またそれぞれのご家庭でも「ほんこさん」と呼んで、正信偈のお勤めをします。



サマーキャンプの毎朝は勤行と黙想から

聖人が晩年に、有阿弥陀仏（ゆうあみだぶつ）という門弟に宛てられたお手紙の末尾に「この身は、いまは、としきはまりて候えば、さだめてさきだちて往生し候はんずれば、浄土にてかならずかならずまちまいらせ候べし」と記されています。この文言は、一人有阿弥陀仏だけに与えられた御言葉ではないでしょう。聖人を慕い、聖人の示された道を歩む、すべての人々へのご遺言とも言えるメッセージでもありましょう。

浄土にて聖人は（み仏となって）私を待っていてくださるのです。一人ぼっちの世界へ行くのではありません。浄土には私を待っていてくださる方がある

のです。聖人を待ちぼうけにさせてはなりません。聖人と同じ信心に目覚めねばなりません。そのための手立てはみ教えを聞くということ、聞法一つであります。

私たちが報恩講を営み、お参りするのには、聖人と同じ阿弥陀仏の信心に恵まれ、同じく極楽浄土へ往生する道を確認するためなのです。（靈山勝海師／仏教家庭学校より）

肩の荷がおりる気功⑥ 腕まわし

実践！

片手ずつ楽に腕を振り、だんだん揺れ幅が大きくなって上まで行ってそのままぐるんと回ります。伸びやかに気持ちよく、全身が連なって動いていると、肩、胸、腰がどンドンほぐれ、楽しい気分になってきます。動きを小さくして止め、反対側も。
by NPO 法人気功協会



ねまもよまもへだてなく
南無阿弥陀仏を
となふべし

◆聖人の生き抜かれた時代は、源平の戦乱から大火、自然災害が相次ぎ、混乱の中歴史状況が大きく変化していました。平家物語や方丈記に描かれる現実社会のはかなさや空しさが、仏教でいう末法の世という時代認識と重なり、多くの人に実感を

持つて広く共有されていたと考えられます。この和讃の全文は「弥陀大悲の誓願を ぶかく信ぜんひとみなねてもさめてもへだてなく 南無阿弥陀仏を となふべし」です。正像末和讃の悲嘆述懐讃には「五濁増のしるしには この世の道俗ことごとく 外儀は仏教のすがたにて 内心外道を帰敬せり」と、様々な濁りに満ちた世界で、みな仏教を信じるかのように振る舞いながら、本心はそれ以外の教えを信じていると悲しまれています。

聖人は、反省すべき自己中心的な煩惱がどんどん肥大化し、飢饉や戦乱などが増大する時代の汚れ、邪悪な思想がはびこる思想の乱れが進み、人間の資質が低下していく「しるし」があると説かれます。

ひたすら仏教者として正しい生き方を求める聖人は、神々を拜まず仏願に生かされる生活を実践されました。そのことで時の権力者や規制仏教教団から弾圧も受けます。しかし仏教が正當に理解されない時代でありながら、それでも人間が真実に向かつて生きる立脚点として、「弥陀の誓願が名号となって回向されて、私の信心としていたり届いている」ことをもって、唯一の救いの道があると突き詰められたのはと伺えるのです。(引用「心に響くことば」)

教えて、お坊さん ⑫ 「この頃、災害とか戦争とか物騒だよね？」…………

今年も地震や台風、大火事も各地であったし、海外では過激派のテロやトランプ政権になってからは北朝鮮の核開発、挑発合戦も一層騒がしい。

仏教では釈尊入滅後の時代を三段階に分け、正法の世、像法の世、末法の世としている。釈尊の説いた正しい教えも正しい修行もあり、それによって悟りに至る人が現れる(証)時代が500年。その後1000年間(期間は諸説あり)は教えと行は残されているが、悟りに至る人は現れない。そして「行証久しく廃れ」て教えのみが残り、悪が命を蝕む「五濁」末法の時代が一万年続くとされている。日本では平安時代からすでに末法に入った。

たまたま今、災害や戦乱の直接被害はないとしても明日にはわからないし、格差、貧困、差別、いじめなどがじわじわと社会を侵食しつつある。ミサイル落下に備える訓練などいざに危機をあおるだけで、オスプレイが落ちる確率の方がよほど高いだろう。本当の危機管理なら若狭湾の原発を止めねばならないし、本当に北朝鮮の問題を考えるなら、64年にも渡る休戦協定という異常事態にこそ根本的な解決策が必要だ。

にもかかわらず、為政者がいたずらに緊張と差別をけしかけ、自国中心、自己保身のために権力を乱用する。暴言失言も虚言さえ弄する。そしてそれを是としてしまうのは国民の責任でもある。人間はどうしても差別心が抜けない。経済神話、安全神話にも寄りかかる。どんな世の中にしたいのかは、人間の暴走を抑制し、どの命も安穩であれという本当の信心 = 慈悲と智慧に裏打ちされて描かれるものではないか。

「福島子どもサマーキャンプ 2017 禅林寺&西養寺 無事終了！」

◆震災翌年 2012 年から TERRA ねっと福井事務局として関わって、今年で通算 6 年目となったサマーキャンプ。当時低学年の子らも中学に入る年齢となる。昨年からリピーター参加者も激減してきて、今年は先立って 6 月に福島県内（いわき、郡山）で行われた保養相談会にスタッフ数名が出席してきた。

全国から約 30 団体が集まり、福島（主に）お母さんが来られて、各地での保養キャンプの情報を直接得る。私たちは初めての出張で、どのくらいのニーズが現地にあるのか半信半疑ながら、結果は 10 名以上の方にお断りをせざるをえなくなるほど申し込みが相次ぎ（定員 20 名）、予想を超える反響に驚いた。

2 名の女性スタッフが応対に頑張ったりしたこともあったようだが、特にいわきではバス迎いの団体が少なかったり（私たちは大谷派キャンプと合同で大型バスを運行）、お寺でお勤めや宿題の時間を持つことも、保護者には評価されたのかもしれない。

海水浴は勿論の活動で子ども達も一番喜ぶ。いわきでは今年 3 カ所が海開きしたものの、子どもには入らせたくないという親も多いと聞く。また、当時 2 歳で海が大好きだった小 4 の女子は今、プールは大丈夫だが海には入れない（それでも足首までは浸かっていたが..）。

保護者の方々もキャンプへの考えや事情は様々なようで、夏の間複数のキャンプへ送り出す家もあれば、むしろレクリエーション的に捉えている場合もあるかもしれない。また、「まだ保養に行くの？」という周囲に配慮して、あまり公言できないという方もいる。保養活動自体も資金面など（大型バスで往復 80 万近く、当初は 50 万ほど）で年々減ってきているが、子ども達にとってはまちがいでなく、汚染のない食べ物を食べ、汚染の心配ない土地で思い切り遊べる経験を楽しめている。

今年は私たちにとっても初めての参加者を多くお迎えすることとなり、また通しのスタッフも年々体がきつくなったり（7 泊 8 日 6 時起床、後半は暑さと疲れで..）キャンプ未経験者が多くなったりしたが、チームワークはよく大きなトラブルもなく、なんとか無事に終了することができた。食事班も含めると 100 名を超えるボランティア、ご支援ご協力いただいた皆様や団体各位にはこの場を借りてお礼を申し上げます。



鮎川海水浴場、飛び込み楽しい！



一泊ホームステイ、8軒の方達招いてお別れ夕食会



国見地区夏祭りに今年も満喫！



徳尾町夕食交流会に地元方々と



エコファーム舟枝さん大ご馳走！

